

# 2019年度／2018年度事業案内

## 川崎いのちの電話

### いのちの電話にご理解とご支援を

「いのちの電話」などの要望を端緒に、「自殺対策基本法」（2006年成立、16年改正）、「自殺総合大綱」（2007年制定、12年、17年改定）が成立しました。1998年から14年間自（死）殺者が3万人を超え、基本法や大綱にもとづく官民挙げての努力により、2018年は2万840人まで減りました。ですが、この10倍の未遂者、その10倍の“予備軍”がいます。

昨年は想定外の天災、人災に見舞われ、多くの方が住家をなくして日々の生活にも支障をきたしました。年号が令和と変わっても、悲惨な事件、事故は後を絶たず、超高齢化社会が進行し、富裕層と貧困層、都会と地方等々種々の分野で格差社会が生じています。老若男女を問わず精神的に孤立し、コミュニケーション不足の社会の中で、親兄弟はもちろん隣人にも相談できずに一人で悩み苦しんでいる人が絶えません。

全国50の「いのちの電話」で6千人余り、川崎でも150人近い相談員が、匿名者からの電話を待ち受け、その悩む心に寄り添い、生きるための支えとなるべく1年365日24時間受信を続けています。これからも一人でも自殺（死）者を出さない社会を目指していきます。

2019年6月

理事長 金子圭賢

### 2019年度事業(活動)計画

#### 変わらずひとりでも多くの声に耳を傾ける

これまでと変わらず、ひとりでも多く相談者の声に耳を傾ける。そのために、引き続き相談員の増員、相談員の研修の充実に取り組む。財政基盤の安定のため、「川崎いのちの電話支援会」の活動を強化し、個人、団体、企業を対象に広く賛助会員を増やす。

- 自死遺族ほっとライン ……川崎市からの委託事業である「自死遺族ほっとライン(毎月第2・第4木曜日午後0時から午後4時まで)」については、研鑽に努め、担当する相談員を増やす
- インターネット相談 ……若い世代からの利用が多い「ネット相談」の返信件数増に取り組む。ネット相談員の増員を図る
- 行政や学校、企業などへの講師派遣 ……要請があれば積極的に応えたい
- 「ゲートキーパー養成講座」の開催 ……昨年度に続いて19年10月～11月に実施する
- こころの健康セミナー ……「こころの健康セミナー」(川崎市との共催)を10月に実施、市民や地域に役立つセミナーとする
- チャリティー事業 ……10月5日に「山形由美(フルート)& 荘村清志(ギター)ハートフル・デュオ・コンサート」、2020年3月7日に落語「柳家三三独演会」を開催
- 製作部による手作り品の製作、バザーなどで販売
- 横浜など近隣センターとの交流を深める

社会福祉法人 川崎いのちの電話

事務局：〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号 ☎ 044-722-7121 発行人：金子圭賢 URL：http://kawasaki-inochinodenwa.jp/

## 2018年度事業(活動)報告

### 1. この1年の歩み

「電話相談の質向上」「相談員の増員・研修の充実」「財政基盤の安定」の3つを大きな柱に活動を行った。相談内容の多様化、相談員の減少の中でさまざまな取り組みを実施、一定の成果をあげた。

理事会と評議員会を5月と翌年3月に開催。実労相談員数(2019年3月末)は144名(男性25名、女性119名)。

### 2. 電話相談事業

#### ①相談件数

2018年(1～12月)の相談電話件数は、1万3492件。17年比665件の増加。1日当たり約37件。自殺傾向の割合は9.8%(前年比0.3%増減)。内容別では、「人生」が全体の30%と最も多い。(詳しくは3ページ)

#### ②自死遺族ほっとライン

川崎市からの受託事業で、相談時間は毎月2回・計8時間。受信件数は21件。件数の多さではなく、「話せる場所」があることを大切に考えている。

### 3. インターネット相談

川崎をはじめ全国14センターでネット相談を行っている。若い世代からの相談が多く、2018年には2830件を返信した。若者支援とSNSの現状について研修した。

### 4. 相談員の養成研修・継続研修

#### ①養成研修

相談員への応募者は、全国的に減少傾向にある。このため、32期養成研修では研修時間を土曜日午後に統一。33期、34期では、公開講座の受講料の無料化などを実施した。32期で10名を電話相談員に認定。33期は19年8月の認定に向けて研修中。34期の募集では、3回の公開講座に延べ350名が受講、21名が養成研修に応募した。

#### ②継続研修

月1回2時間、16のグループに別れて研修、相談員全員がスーパービジョンを実施。相談の質と対応力を高めるため計3回の全体研修会、中堅相談員のためのスキルアップ研修も行った。

③自死遺族ほっとライン、東日本大震災・原発事故被災者のための「ふくしま寄り添いフリーダイヤル」の研修を実施。

### 5. 相談委員会

16の継続グループの相談員委員が毎月1回、委員会を開催。相談活動での悩みや課題を話し合っている。今期は空きコマ対策について検討。具体的な解決方法は見いだせなかったが、現状の中でできる対策について議論した。

### 6. 広報誌の発行

広報誌「川崎いのちの電話」を7月、11月、3月と3回発行(延べ13,500部)した。特集は次のとおり。93号「自死遺族が望む支援」～自死遺族ほっとライン研修から～。94号「人生で起きることには無駄なことはない～余命2ヶ月と宣告されても、前向きに生きる～」キャリアコンサルタント 長橋輝明さん。95号「誰もが居心地の良い居場所を目指して」宮前平駅前スペースここわ会代表 小久保富久子さん。カフェ「ビジネスステーション トゥーリズ」共同運営者 米田高志さん、矢口大輔さん。

### 7. チャリティー事業

電話相談活動を市民に理解してもらい、収益を活動費に充てるため開催。天満敦子バイオリンコンサート(10月)と柳家三三・落語独演会(3月)に開催。

### 8. 手作り品の販売

製作部は本部と新ゆりで手作り品を作り、チャリティー事業や教会などのバザーで販売した。

### 9. 財務委員会

新たに、商工会議所会頭、医師会会長らを発起人に「川崎いのちの電話支援会」を発足させた。広く市民や経済人を対象に賛助会員の増員に力点を置いた。この結果、すべての寄付金が予算目標を達成した。

### 10. 社会教育活動

#### ①こころの健康セミナー

市民を対象に川崎市と共催で9月29日開催。「睡眠と健康」をテーマに、田中克俊・北里大学院医療系研究科教授らを講師に招き、185名が参加。

#### ②講師派遣

秦野市立南中学校福祉講演会(6月13日)に2名派遣、相模原市精神保健福祉センターのゲートキーパー講演会(9月27日)2名派遣。

#### ③ゲートキーパー養成講座

11月～12月(4回)にかながわコミュニティカレッジで、初めて「ゲートキーパー養成講座」を開講。定員30名を上回る応募があり48名に定員を増やした。

#### ④外部の会議への参加

神奈川県犯罪被害者支援者会議、川崎市地域自殺対策推進連絡会議、川崎市青少年育成連絡会議。

# 1. 2018年の相談件数は1万3492件、17年比665件増加

2018年(1~12月)の相談電話件数は、1万4671件で、内容別の「その他」を除いた実相談電話件数は1万3492件だった。17年に比べて665件増加。1日当たり約37件。自殺傾向のある割合は9.8%(前年比0.3%増減)、男性10.5%、女性9.3%。12年から10%台が続いていたが、6年ぶりに10%を下回った。

内容別では、「人生」が4090件(全体の30%)で最も多く、「保健・医療」3039件(23%)、「家族」2193件(16%)、「対人」1827件(14%)、「夫婦」843件(6%)、「男女」793件(6%)、「性」337件(3%)の順になっている。「人生」が1位を続け、「保健・医療」は13年から20%台が続いている。男女別では、男性43%、女性57%。

年代別では、50代が24%、40代が22%。この2つの世代が全体の半数近くを占め、30代と60代が14%、20代が8%、70代以上4%、10代以下が3%の順。世代不明が11%。

毎月10日に実施している「フリーダイヤル自殺予防いのちの電話」の相談件数は、608件、自殺傾向の電話は18.3%と、通常電話の約2倍。

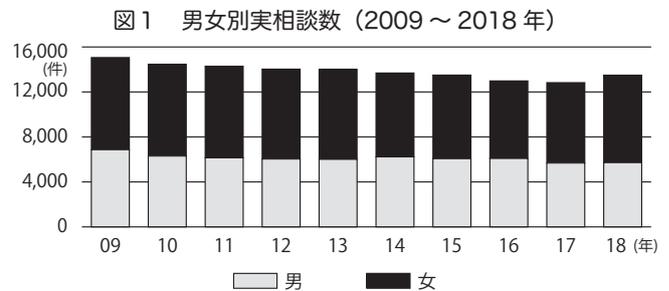
# 2. 2009年~2018年(10年間)の電話相談推移

相談を男女別、年代別、内容別、自殺志向別に10年間の推移を表とグラフで示した。

## 1 男女別実相談数

(単位: 件)

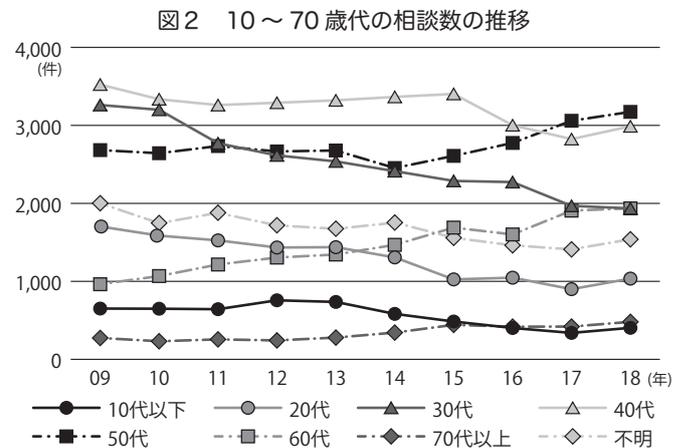
区分	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
男性	6,866	6,299	6,142	6,036	6,011	6,228	6,067	6,086	5,677	5,716
女性	8,194	8,162	8,144	7,993	7,998	7,458	7,432	6,895	7,150	7,776
計	15,060	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	13,499	12,981	12,827	13,492



## 2 年代別実相談数

(単位: 件)

区分	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
10代以下	651	649	643	757	736	583	485	402	339	404
20代	1,703	1,586	1,525	1,434	1,438	1,307	1,025	1,047	900	1,035
30代	3,261	3,200	2,771	2,615	2,538	2,413	2,288	2,273	1,968	1,936
40代	3,523	3,335	3,260	3,290	3,321	3,365	3,403	3,002	2,824	2,988
50代	2,683	2,643	2,735	2,666	2,678	2,453	2,609	2,775	3,059	3,173
60代	963	1,068	1,216	1,305	1,344	1,468	1,689	1,601	1,907	1,936
70代以上	274	232	256	243	279	343	442	419	420	481
不明	2,002	1,748	1,880	1,719	1,675	1,754	1,558	1,462	1,410	1,539
計	15,060	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	13,499	12,981	12,827	13,492

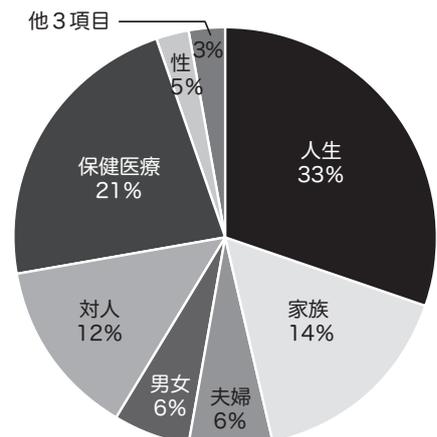


## 3 内容別実相談数

(単位: 件)

区分	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	計
人生	5,210	5,085	5,075	4,659	4,446	4,393	4,101	4,055	4,178	4,090	45,292
家族	1,691	1,808	1,817	2,018	2,070	2,039	1,938	1,786	1,894	2,193	19,254
夫婦	1,026	910	925	786	863	711	692	747	739	843	8,242
男女	808	772	738	1,025	1,087	1,006	898	1,061	906	793	9,094
対人	1,849	1,763	1,482	1,555	1,577	1,596	1,802	1,688	1,551	1,827	16,690
保健医療	2,787	2,473	2,502	2,591	3,084	3,230	3,299	2,992	2,932	3,039	28,929
性	1,248	1,210	1,218	905	404	360	428	333	304	337	6,747
他3項目	441	440	529	490	478	351	341	319	323	370	4,082
計	15,060	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	13,499	12,981	12,827	13,492	138,330

図3 10年間の内容割合

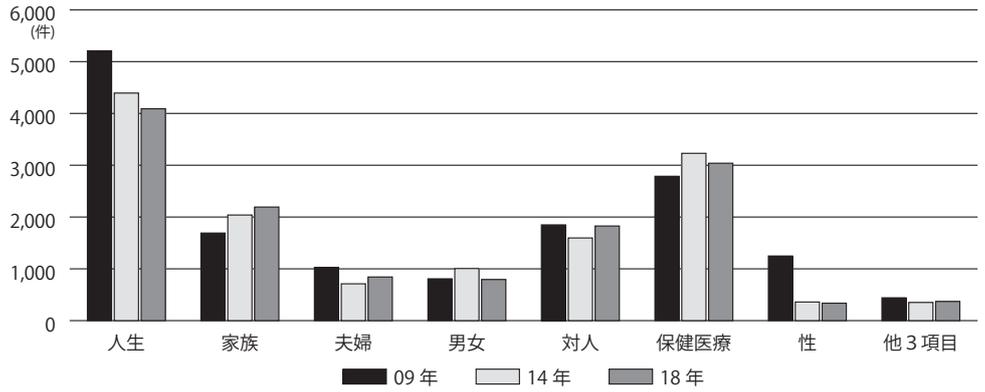


内容別実相談数の年別比較

(単位：件)

	09年	14年	18年
人生	5,210	4,393	4,090
家族	1,691	2,039	2,193
夫婦	1,026	711	843
男女	808	1,006	793
対人	1,849	1,596	1,827
保健医療	2,787	3,230	3,039
性	1,248	360	337
他3項目	441	351	370
計	15,060	13,686	13,492

図4 内容別実相談数の年別比較

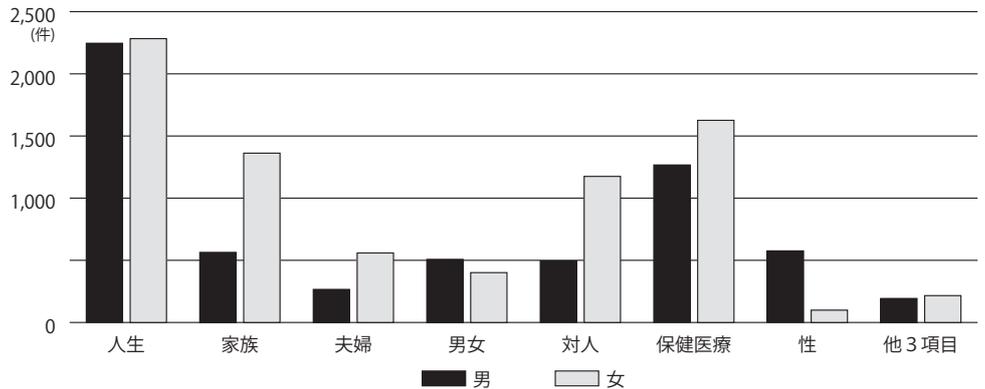


2009～2018年男女別平均

(単位：件)

	男	女
人生	2,246	2,283
家族	564	1,362
夫婦	266	559
男女	508	401
対人	494	1,175
保健医療	1,267	1,626
性	576	99
他3項目	193	216

図5 男女の内容別実相談数(2008～2017年平均)



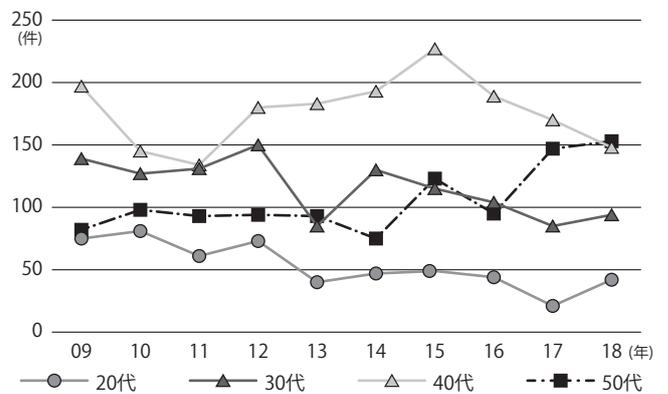
4 自殺志向相談状況

男女別自殺志向相談割合の推移

(対実相談数%)

	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
男性	9	9.6	8.7	10.2	12.2	9.3	11.1	9.7	10.0	10.5
女性	11	10.1	10.8	12.2	8.2	13.4	12.4	13.2	10.2	9.3
男女計	10.1	9.9	9.9	11.3	10.9	10.9	11.8	11.5	10.1	9.8

図6 男性20歳～50歳代自殺志向相談の推移

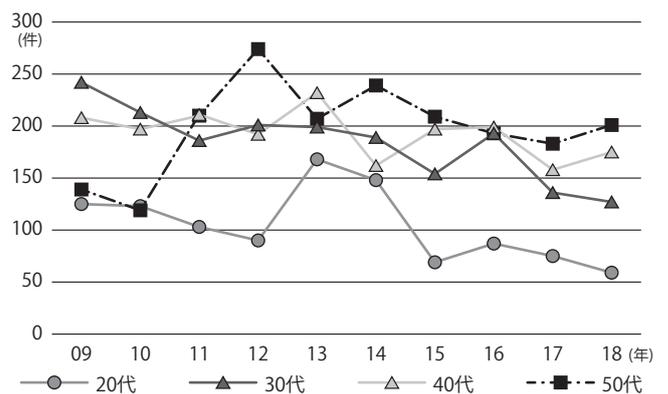


自殺志向男性年代別の推移

(単位：件)

	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
20代	75	81	61	73	40	47	49	44	21	42
30代	139	127	131	150	85	130	115	104	85	94
40代	197	145	134	180	183	193	227	189	170	148
50代	82	98	93	94	93	75	123	95	147	153

図7 女性20歳～50歳代自殺志向の推移



自殺志向女性年代別の推移

(単位：件)

	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
20代	125	123	103	90	168	148	69	87	75	59
30代	242	213	186	201	199	189	154	193	136	127
40代	208	197	210	274	207	239	209	193	183	201
50代	139	119	211	192	232	162	197	199	158	175



## 寄付感謝

2018年度は次の方々、法人・団体の皆さんから温かい寄付をいただきました。感謝してご報告します。

### 《個人》

阿部 孝夫	栗井 清	安達 成功	安田 享二	伊藤 公雄	稲川 菊代	白田 勝己	越水 正明	奥 秀子
岡田 良子	岡本由利子	加藤トミ子	加藤 紹大	嘉瀬志津子	河合 束	河合 徹子	河合 眞	蝦名 義博
笠原 光子	梶川 明美	梶田みどり	関 慶子	関 聖一	関口 賢次	関口 晴雄	吉田 伸一	吉野八重子
吉澤 孝彦	吉崎 睦子	久津間康充	久保 宗義	久保美矢子	宮下 貞子	宮本 弘美	近藤百合江	近藤八千代
金子 圭賢	金子 顕	鍵屋 清作	原 勝代	古渡 智江	高橋 正	高橋 勉	高村 眞	今野タネ子
佐々木陽子	佐藤 正明	佐藤美津子	笹川 泰弘	山下 秀男	山鹿 文子	山田 長満	山田美和子	山本 剛
市川 功一	持田喜久代	漆原 敦子	篠田喜久子	柴田 武子	柴田 頼子	若杉 信子	手塚 豊子	手塚悠美子
助川 公子	小松原洋子	小川 照子	小川 祐一	小泉 政勇	小泉 正博	小島 克巳	小島 良子	小林 英機
小林 直人	小林美年子	小林 峯子	庄嶋 弘介	松岡 光子	松岡 信子	松島 太郎	松尾 信子	松本 英彦
常松 恭子	新海 和夫	森 光子	森 清	深瀬 正子	秦 ひろみ	仁上喜久夫	杉浦 初子	菅沼 雪絵
瀬森 尚洋	西村 典子	西田喜久子	斉藤加奈子	石橋 博	石橋 慶子	石原 淳子	石原 敏光	石川 俊恵
石田 遵	石田 眞一	石崎伊久男	浅田 美子	前山 英二	倉片 孝行	早崎 悦子	相澤ミチ子	村上カズコ
村田 紀子	太田 文雄	太幡世記子	大石 幸生	大石 眞理	大谷喜代司	大槻弥栄子	大島 良	大澤 陽子
瀧野 修	竹内 光代	中村 幸代	中村 文子	中島 泰己	中由 光徳	中里 君江	仲村アサ子	長掛 栄一
長塚いつ子	長尾みよし	鏑木 昌代	田中 康夫	田辺 耕喜	都高 真道	島 典子	島崎 祥子	藤 真知子
藤嶋とみ子	内田 三枝	内田 勝敏	梅田 初志	尾根 恒	富田美津子	平井 智子	片山世紀雄	北村 信子
北條 秀衛	本田 雅子	木崎 光子	目代 健次	初山 勝雄	野上 和子	矢田部光江	余湖はれみ	落合 弘子
立川 典子	林 茂	鈴木 恵子	鈴木 清	鈴木 早苗	露木 知美	露木 明美	鷲巢 浩代	澁谷 初美
澤 洋子	齋藤 正	齊木 貴	匿名希望11名					

### 《法人・団体》

(株)飛鳥典禮 カリタス学園同窓会 ライオンズ国際協会330-B地区 (株)見村鉄骨グループ 久津間製粉(株) 国際ソロプチミスト川崎 宗教法人潮音寺 石崎運輸(株) 川崎多摩川ライオンズクラブ 川崎北ライオンズクラブ 多摩設計 日本キリスト教団溝ノ口教会 (有)湘南安全硝子 新ゆり製作部 募金箱	おくせ医院 ケイ・アイ 商事(株) 一般社団法人SD総合研究所 (株)三泉 玉川地区社会福祉協議会 三神商事(株) 小田原白梅ライオンズクラブ 川崎境町教会 川崎田島ライオンズクラブ 川崎臨海ライオンズクラブ 多摩川ハイヤー(株) 日本基督教団川崎教会教会学校 (有)太平商事 センター製作部	カトリック鷺沼教会 ジェクト(株) (株)アドバンスホーム (株)美幸軒 元住吉教会教会学校 四葉G C 神奈川県精神保健福祉協会 川崎市医師会 川崎南ライオンズクラブ 捜真女学校中学部 日本キリスト改革派東京恩寵教会 (有)アイディーエー (有)渡辺設計 チャリティー事業収益金	カトリック百合ヶ丘教会 プライムコーポレーション(株) (株)ホクト (株)櫻井興業 高津区鎮座白髭神社 寺嶋ヨガ生田教室 石原工業(株) 川崎商工会議所 川崎朋友ライオンズクラブ 相模原西L C 日本キリスト教団元住吉教会 (有)モクダイ くちなし会 書道部
---	---	---	---

## 財政支援にご協力をお願いします

24時間365日眠らぬ電話相談活動は、資金ボランティアからの会費、寄付により支えられています。相談員の養成、研修のほか、建物の維持管理、人件費、事務費、広報活動に年間約1600万円の資金が必要です。自前での資金確保(チャリティー事業による収益など)に努めているほか、川崎市からの補助金、多くの個人、法人・団体から寄付をいただいています。2018年4月に財政基盤の安定のため、「川崎いのちの電話支援会」が発足しました。どうぞ皆さまのご理解とご支援を心からお願いします。

川崎いのちの電話への寄付は寄付金税額控除など税制上の対象になります。

#### ◇賛助会員 定期的に会費で寄付をいただける個人、法人・団体

(1)個人会員 年額 5万円 3万円 1万円 5千円 3千円  
 (2)法人・団体会員 年額 10万円 5万円 3万円 1万円

#### ◇寄付 個人、法人・団体ともに金額、回数を定めない場合。相続や遺贈による寄付も控除対象となります。

#### ◇振込先

(1)ゆうちょ銀行からの振り込み(払込取扱票にて) 口座番号:00240-2-36798  
 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話

#### (2)他銀行から振り込み

銀行名:ゆうちょ銀行 店名:〇二九(ゼロニキュウ店) 預金科目:当座  
 口座番号:0036798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話

お問い合わせ:川崎いのちの電話事務局(044-855-1482)

「2019年度/2018年度事業案内」を発行しました。1年間の活動の報告とこれからの1年間の計画、決算・予算の概要、この10年間の電話相談の推移などを紹介しています。詳しい内容は、川崎いのちの電話のホームページ(<http://kawasaki-inochinodenwa.jp>)に掲載します。